

自己点検・評価（令和5年度プログラム実施分）

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況	良好	プログラム開始3年目となる令和5年度は、大学の収容定員5490人（入学定員1310人）に対してほぼ全員が本プログラムを受講した。収容定員に対する新入生の履修率は約24%であり、初年度0.4%、2年目の約17%から大きく改善することができた。累計のプログラム履修者の割合は約42%である。医学部5・6年生、改組の年次進行中である工学部、および人文の文化学科がDSⅡを2年次に開講したことにより50%に達しなかった。逆に言うと、今年度以降は履修率100%に向けて着実にプログラム履修者が増加することを意味する。その中で、受講生の9割以上の学生が必修2科目4単位を修得することができている。履修率、履修状況ともに良好と判断した。
学修成果	概ね良好	授業アンケート（1～5点評価）の結果、データサイエンスⅠの総合満足度は3.92（人文3.9、教育3.9、医3.9、工学3.8、および生物資源4.1）、データサイエンスⅡは3.76（人文4.0、教育3.9、医3.6、工学3.4、および生物資源4.0）であり、全体的に満足度は高く、昨年度と比較してどの学部も向上した。個別項目で見ると、ⅠとⅡの理解度は総合評価とほぼ同じ4.00と3.6、新知識獲得に関しては4.32と4.03であり、データサイエンスに関する新しい知識を獲得し理解できていることがわかる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	概ね良好	アンケートの総合評価に関しては上記のとおりであるが、自己調査（自分でプラスαの調査や勉強をした）に関してはⅠが3.72でⅡが3.74となった。データサイエンスⅠでは情報リテラシーとデータリテラシーを学び、データサイエンスⅡではそれぞれの学部にて設定した目標に対して体験型学習を重視した取り組みを実施しているが、昨年度の評価ではⅡがⅠより高かった。今年度はほぼ同じであることを考えると、Ⅰのレベルが上がってきたように思われる。理解度・学習成果は概ね良好に得られていると判断した。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	概ね良好と推察	授業アンケートの中で直接的に推奨度を問う項目は設けていないが、上述のように「新しい知識の習得」はデータサイエンスⅠ、Ⅱともに5段階評価で4を超える評価を得た。後輩等他の学生への推奨度も高いのではないかと推察される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	大きく改善	改組の学年進行中でカリキュラム変更ができなかった工学部を加え、人文、教育、医、生物資源学部の全学部で「データサイエンスⅠ」と「データサイエンスⅡ」の2科目4単位必修化が達成できた。その結果、プログラム履修率は大学学部学生の入学定員に対して約24%となった。今後も計画的に履修率の向上が見込まれる。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	未実施 （今後実施予定）	データサイエンス実践演習など、地元企業との連携の中で、大学のデータサイエンス学修プログラムに関する意見を頂戴する。また、卒業生アンケートなどを通じて学習効果を評価するが、データサイエンス学修プログラムを修了した学生が就職したあとのデータが必要であるため、アンケート分析は未実施である。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	未実施 (今後実施予定)	地元企業との連携事業を通じて意見などを頂戴する予定である。また、データサイエンスセミナー講師などからも頂戴する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	積極的な取り組み	数理・データサイエンス館（通称CeMDS＝セムズ館）において、体験型学習と学生同士で問題解決を図るための仕組みとしてCeMDSサポートデスク（大学院生スタッフが学部生の相談に応じる）を運営している。CeMDSでは、3Dプリンタなどの機器や実習・研修スペースなども提供しており、データサイエンスⅡの授業の中での活用も行われている（タンパク質の立体構造を3Dで観察、3Dプリンタを用いて立体構造を理解するなど）。データサイエンス学修プログラムの周知やデータサイエンスセミナーなど、在学生と教職員への啓蒙活動を行い、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を大学構成員全員に対して理解してもらうことの努力を行っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	標準的な取り組み	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすることができるよう、情報教育専門委員会委員を通して各学部の授業担当者と情報共有、データサイエンスⅠとデータサイエンスⅡの授業内容改善に役立てる。